自治医科大学附属さいたま医療センター卒後臨床研修プログラム

(GUIDE 2019)

「専門医研修プログラム対応」

Postgraduate Clinical Training Program



センター 長の **挨拶**





百村 伸一

自治医科大学附属さいたま医療センターは東京に隣接した人口120万余の"さいたま市"にあり、さいたま市およびその周辺を含む埼玉県中央部における中核医療施設として市民病院的な役割を担っているとともに、大学病院としての高度専門医療の提供も重要な責務としています。平成元年に許可病床数200床の病院として自治医科大学附属大宮医療センターの名称で開設されましたが、平成13年に旧大宮市、浦和市、与野市が合併し平成17年には旧岩槻市も加わりさいたま市になったことから、当センターも平成19年7月にさいたまを療センターに改名いたしました。

当初は地域医療を支える自治医科大学の卒業生による総合診療の基幹病院としての役割と地元大宮市(当時)が切望していた急性期循環器疾患に対する高度先進医療の提供を中心としておりましたが、年々、循環器以外の領域についても最先端の高度医療の提供を求められるようになり、毎年のように増床を重ねて現在では許可病床数も628床となり、全ての専門分野において高度医療を提供する施設となりました。しかし、設立の目的の1つである総合医診療の実践と総合医の育成についての努力も脈々と続いており、大学病院では経験することの少ない所謂Common Diseaseの診療も決しておるそかにすることはなく、また一方では、大学病院として一般の市中病院では診られない稀有な疾患や最先端の技術を駆使した高度医療を必要とする症例に至るまでの多彩な疾患の診療に当たっております。

このように当センターが一般市民病院と大学病院の特徴を併せ持ち、極めて豊富な症例に対応していることは、専門医志向の医師からは必ずしも歓迎されない面もあり、また、病院経営としても非効率的と言わざるを得ないところも多々あります。しかし、病気はある特定の臓器の部分的な障害であることはむしろ稀であり、医師本来の役割としては例え専門医であっても患者の多様な訴えに対して基本的な対応はできなければならないことは言うまでもありません。また一方で、基本的な対応だけでは事足りず高度医療を必要とする場合も少なくなく、当センターのように広い裾野と幾つもの高い峰を抱える病院は、臨床研修という面でも稀有な価値を持つと確信しております。

自治医科大学はへき地などの地域医療に貢献する医師を育成する医科大学です。従って、本学卒業生は地域医療で活躍しておりますが、当センターの指導医の中にはそのような地域医療を長年経験してきた本学卒業生が多数おります。これらの医師達による理屈や理想論に留まらない実地経験に基づいた筋金入りの総合診療の指導が受けられるということも当センターでの臨床研修として特筆されます。これらの利点・特徴を生かして当センターでは現在の臨床研修制度義務化(平成16年施行)が始まる前の当センター開設当初よりスーパーローテーションによる初期臨床研修を行ってきました。同時に、大学病院としての高度先進医療においてもその充実に努め、開院当初より我が国でも屈指の技術と症例数により世に知られるようになった虚血性心疾患の診療にとどまらず、現在では、血液疾患の骨髄移植治療、耳鼻咽喉科の鼓室形成術、肝胆膵外科手術、肺がん手術、子宮内膜症の治療など、多くの分野で埼玉県下はもとより全国的にも高い評価を得るに至っております。また、平成22年度には地域周産期母子医療センターに認定され、平成26年度からは地域がん診療連携拠点病院の指定を受けるとともに、新たに精神科、救急科を標榜しました。救急医療については、平成28年に救命救急センターを開設するなど、ますますの充実を図っています。

このように、当センターでの研修は長年の地域医療の経験に基づいた総合医療の基盤に立つ指導とそれに続く高度専門医

療の研修を可能にしていることなど多くの特徴をもつと自負していますが、中でもそれぞれの専門領域で第一線に立つ専門医たちが、自治医科大学の建学の精神に基づいて、総合診療の重要性を理解してそれぞれの専門領域という壁を立てずに研修の指導に当たっているということが最も大きな特徴と言えるでしょう。また、さらに良質な研修を提供できるように、ワシントン州立大学内科名誉教授のFujimoto客員教授や前カルフォルニア大学ロスアンゼルス校外科教授のLefor教授による米国流研修の直接指導を受ける機会を設けるなど、意欲のある若い医師の期待に応える研修体制の改善に努力を続けております。多くの有能な研修医(レジデント)の参加を期待しております。



一般プログラム・ホスピタリスト重視プログラム責任者

卒後臨床研修室長

菅原

吝



自治医科大学附属さいたま医療センターは開院以来、総合医養成を主眼としたプログラムを全国でもいち早く取り入れて今日まで来ました。一般プログラムの詳細はプログラム説明にありますように、内科系専門医、外科専門医、外科系専門診療科医、救急専門医養成に対応できるよう弾力性のあるプログラムとなっています。また、2010年から、たすき掛けプログラム導入により、柔軟かつ切れ目のない内科研修が可能となるようホスピタリスト重視プログラムを新設しました。当センターは病床数628床、外来患者数1日1,300人以上が通院する大学病院でありますが、common diseaseから先端医療まで含めた臨床研修が可能な埼玉県の中核的病院です。各診療科間の垣根が低いことから気軽に他科へのコンサルテーションができ職員間のコミュニケーションもスムーズであります。レジデントから各科教授へのコンサルテーションも抵抗なくできるというのがレジデントの感想で、当センター研修の特徴の一つとなっています。このようにレジデントは効率良く各診療科専門医や指導医からの直接的指導を受けることができます。また、研修指導は屋根瓦方式を遵守することで軽微な内容から高度な指導まで可能となるきめ細かな指導体制をとっています。厚労省が提唱する初期臨床研修期間中に経験すべき症例は無論のことレジデントが希望する研修内容を個別に取り入れ柔軟に対応できるプログラムを用意していますので充実した臨床研修ができます。私どもはこの豊富な症例数と優秀な指導体制を基盤として各レジデントの皆さんの将来へのキャリアプランを支援いたしま

す。内科専門医をはじめ、プライマリケア医、ホスピタリスト、家庭医、各専門診療科専門医、基礎・臨床研究医などあらゆるキャリアアップのための機会を提供します。大学院への進学を含めた進路指導も卒後臨床研修室はバックアップします。本初期研修プログラムは3年目以降の後期研修プログラムとも連動していますので、各科専門医の取得が可能です。当センターでは総合医と専門医の融合を目指し、将来の地域医療医としての必要不可欠な初期研修教育を全職員の協力のもと支援します。

オリエンテーション時にはシミュレーター実習やICLS講習会を取り入れその後の病棟における臨床研修への円滑な移行ができるよう工夫しています。地域医療研修では訪問診療やへき地医療を経験でき、プライマリケア研修や外来研修も可能です。救命救急センターでの救急研修では救急車来院件数 1 日20件以上におよぶ救急研修を経験できます。当センターの初期研修医は全国から集まるのが特徴ですが、様々な情報を各研修医間で共有し研修プログラムの改善へ向けて卒後臨床研修室との意見交換を通じて常に研修内容の改定を検討しています。指導医の陣容に関しても豊富な経験と業績をもつ教授・准教授スタッフ等の教職員がそろっており皆さんの研修を支援します。

小児科プログラム責任者

教授 市橋 光



プログラムの目標として子どもの総合医療、小児救急医療、新生児医療を実践できる十分な診療能力を備えることとしています。

特徴としては、

1) 小児救急医療と新生児医療の研修の重視

小児救急や新生児では臓器別ではなく、さまざまな臓器疾患の小児救急医療、新生児医療を行なわねばなりません。このため1つの臓器に偏ることなく、幅広い知識が必要となります。

現在、さいたま市小児救急医療の2次救急指定病院として週に2回の輪番業務を行なっています。希望するレジデントは指導医とともに当直研修を行なっていますが、この当直研修は小児救急医療の研修としてきわめて有用です。また、小児病棟の他、NICUを含む新生児病棟を有し、充実した新生児医療の研修ができます。

2) 超音波検査の実践

超音波検査は被曝がなく非侵襲的であり、小児領域では第一選択となるべき画像診断法です。しかし、多くの大学病院や小児病院では、専門スタッフが検査を担当しているため、レジデント自らが検査に従事して手技を学ぶ機会は少ないです。当センター小児科では最新の超音波診断装置を6台有し、上級医の適切な指導を受けながらレジデント自らが超音波検査を行なっています。

産婦人科プログラム責任者





自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科プログラムは、婦人科疾患を扱う「産婦人科」と、産科疾患を扱う「周産期科」の2科で構成されています。「周産期科」は「産科」と「新生児科」、「小児外科」で構成され、多くを学ぶことができます。 産婦人科プログラムの指導者は、産科担当の教授、婦人科担当の教授計3名を中心に、数多くの疾患を経験したスタッフで組織され、懇切丁寧に、一人一人の研修医のペースにあわせながら指導しています。

埼玉県は人口比で全国一産婦人科医師数が少ない県として知られており、多くの産婦人科医師を必要としています。このため、必要医師数よりも患者数の方が多く、豊富な症例を研修医のうちに経験し、研修終了後は即戦力として活躍することができます。 当センター産婦人科プログラムの特徴として以下の3項目が挙げられます。プログラムの最終目標として、産科学、婦人科学のいずれにも偏ることなく、産婦人科医療を実践するための十分な診療能力を身につけられるようにすることとしています。

1)豊富な疾患を集学的に学ぶ

埼玉県の人口は、本院のある栃木県の人口の約3.5倍です。分娩数も3.5倍あり、さいたま市だけで栃木県に匹敵します。このため、多くの症例が当院に紹介されます。特に他科合併症を持つ患者が多く、他の診療科と協力して総合的な治療を行います。当センターは診療科毎の垣根も低く、他科医師からも多くのことを教えてもらえます。妊娠高血圧症候群の国内ガイドライン作成を担

当した教授もおり、全身的な管理を学ぶことができます。産婦人科の知識だけでなく他科の知識をも集学した、総合的な治療を習得し、実践できるようになります。

2) 超音波出生前診断技法を習得する

当センターは埼玉県の胎児超音波遠隔診断の4拠点のうちの1つとなっており、診断に困る症例の相談窓口となっています。このため、多くの胎児診断を経験することができ、超音波の基本から応用まで学ぶことができます。担当教授は多くの超音波専門医を養成しており、専門医取得後の資格取得にも有利です。

3) 腹腔鏡手術手技を習得する

担当教授は、国内で腹腔鏡が導入され始めた頃から、腹腔鏡手術を行なっています。これまでに多くの腹腔鏡手術の技術認定医を養成しており、研修希望者も数多くいます。今や腹腔鏡手術は婦人科手術手技の基本となりつつあり、これを研修医から学べる環境にあることは、大きなアドバンテージとなります。

一般プログラム 定員24名 (オーダーメイドのプログラムを各自の希望に応じて作成します。)

一般プログラムでは内科系(内科専門医、内科系診療科専門医などの志望者)、外科系(外科専門医志望者、外科系専門診療科志望者)、ならびに救急専門医志望者に最適なプログラムです。内科系・外科系・救急専門医志望者は本プログラムで応募できます。(下に記しているのは例です。)

本プログラムは弾力性あるプログラムも目指しています。上記1~4の志望コースに適合しないが一般プログラムで応募したいと希望している方にはコース未定者として(内科系・外科系をまだ決めていない人、麻酔科、放射線科等の希望者)本人のプランに沿って柔軟に対応することも可能です。



*** 1. 内科系志望者 ❖**

| 内科1 | | 内科2 | | 内科3 | | 救急 | | | 産婦人科 |
|-------------|-------------|----------------------|--|-------|--|-------------------|------------|------------|------------|
| (3ヶ月) | | (3ヶ月) | | (2ヶ月) | | (3ヶ月) | | | (1ヶ月) |
| 地域 (1ヶ月) | 外科 (2ヶ月) | 麻酔科 小児 (2ヶ月) (2ヶ月 | | | | 斗 4 √月) | オプション 1 | オプション 2 | オプション 3 |

本プログラムでは総合医と専門医のバランスのとれた内科医養成を目指しています。

当センターの内科系病棟は4つあります。6階東病棟(循環器科)、5階西病棟(消化器科・神経内科)、南館6階A病棟(血液科・腎臓科・リウマチ膠原病)、南館6階B病棟(総合診療科・内分泌代謝科・呼吸器科)。ローテーションは順不同です。診療科選択は内科系志望とすることによりすべての内科病棟を回ることができ、内科専門医養成プログラムとして最適です。

オプションでは精神科、臨床検査科、放射線科、CCU、ICU、各診療科などから自由選択で決めます。

*** 2 外科専門医志望者 ❖ ***

| 外科 | | 内科 l | 内科2 | 内科3 | | 救急 | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| (3ヶ月) | | (2ヶ月) | (2ヶ月) | (2ヶ月) | | (3ヶ月) | | |
| 地域 | 麻酔科 | 呼吸器外科 | 心臓外科 | 脳外科 | 整形外科 | オプション | オプション | オプション |
| (1ヶ月) | (2ヶ月) | (2ヶ月) | (2ヶ月) | (1ヶ月) | (1ヶ月) | 1 | 2 | 3 |

日本外科学会外科専門医志望者(一般・消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科)に最適なプログラムです。外科系診療科は4階東病棟(消化器外科・一般外科)、4階西病棟(呼吸器外科・消化器外科)、6階西病棟(心臓血管外科)があります。一般・消化器外科、心臓血管外科ともに、国内有数の手術症例数を誇り、周術期管理から基本手術手技まで十分なトレーニングが受けられます。

本コースを選択することで日本外科学会外科専門医取得に必要な症例を初期研修期間中に一部経験することができます。

*** 3. 外科系専門診療科志望者 ***

| | 専門診療科 (3ヶ月) | 内科 1 (2ヶ月) | | 斗2 ·月) | 内科3 (2ヶ月) | 救急 (3ヶ月) | | |
|------|----------------|---------------|--|-----------|--------------|-------------|-------|-------|
| 地域 | 麻酔科 | 外科 | | Ę | 亨門診療科 | オプション | オプション | オプション |
| (1ヶ月 | (2ヶ月) | (3ヶ月) | | | (3ヶ月) | 1 | 2 | 3 |

外科系診療科の中でも眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・整形外科・脳神経外科・麻酔科のいずれかを志望する人に最適です。1年目と2年目に専門診療科(3ヶ月)各3ヶ月間研修します。研修開始時にどの専門診療科を選択するかを決めます。

★★★ 4. 救急専門医志望者 ★★★

| 内科 (2 ₇) | | 内科 (2ヶ) | | 内科3 (2ヶ月) | | 救急 (4ヶ月) | | | 麻酔科 (3ヶ月) | | |
|-------------------------|---|------------|--------------|---------------|-------------|-------------|--------------|-----|--------------|------------|------------|
| 地域 (1ヶ月) | 1 | 外科 2ヶ月) | 小児科 (1ヶ月) | 整形外科 (1ヶ月) | 脳外科 (1ヶ月 | | ICU (2ヶ月) | オプシ | ョン | オプション 2 | オプション 3 |

救急医専門医を志望する人に最適です。当センター救命救急センターは年間救急車搬送台数9,200台以上(平成29年度実績)を有しており、救急医療全般に対応しています。コースは、急性期総合診療を目標に、内科系・外科系全般と外傷の診断・管理が幅広く学べるように構成しています。院内ではICLS、ISLS、PTLS、JPTEC、JMECCの受講が可能です。



オプションで臨床力アップ

オプションは研修医の意見で選択できる科目です。放射線科、感染症科、生理機能検査、内視鏡、その他、皮膚科、眼科、 耳鼻科、脳外科、整形外科、ICU、CCU等必修科目でない領域の研修ができます。臨床技術力増進のため利用できます。

小児科プログラム 定員2名

| 内和 (2ヵ | | | 料2 ·月) | 内科3 (2ヶ月) | 救急 (3ヶ月) | | | 麻酔科 (2ヶ月) | | 産婦人科 (1ヶ月) |
|-------------|----------|----------|-----------|--------------|-------------|--------------|------------|--------------|------------|---------------|
| 地域 (1ヶ月) | 外 (25 | 科 ·月) | | 小児科 (4ヶ月) | | ICU (1ヶ月) | オプション 1 | オプション 2 | オプション 3 | オプション 4 |

小児科志望者に最適です。1年目、2年目のローテーションは順不同です。

産婦人科、麻酔科、外科、ICUは小児科研修に必修として研修することとしています。オプションはレジデントの希望により、検査手技の習得や他の診療科目の研修を目的として、比較的自由に選択することができます。



| 月 | 8:15 モーニングカンファレンス | 16:30 イブニングカンファレンス |
|---|-----------------------|--------------------------------|
| 火 | 8:00 抄読会・モーニングカンファレンス | 15:00 新生児回診 16:30 イブニングカンファレンス |
| 水 | 8:15 モーニングカンファレンス | 15:00 教授回診 16:30 イブニングカンファレンス |
| 木 | 8:15 モーニングカンファレンス | 16:30 イブニングカンファレンス |
| 金 | 8:00 モーニングカンファレンス | 17:00 エコーカンファレンス |

産婦人科プログラム 定員2名

産婦人科研修においては、プライマリ・ケア医として女性の生涯の健康管理に役立つ医師となるための基礎力をつけさせることを目標とします。次の各コースの選択が可能です。

| 内和 | 斗1 | | 料2 | 内科3 | | 救急 | | | 婦人科 | | オプション |
|-------------|-----|-----------|-----|----------|--|----------------------|---------|---------|---------|------------|------------|
| (25 | ·月) | | ·月) | (2ヶ月) | | (3ヶ月) | | | (2ヶ月) | | 1 |
| 地域 (1ヶ月) | | 染科 √月) | | 科 ·月) | | 科 ₇ 月) | 選択 1 | 選択 2 | 選択 3 | オプション 2 | オプション 3 |

選択1、2、3を以下のように振り分けます。

1.産婦人科・一般コース(選択をそれぞれ婦人科、産科、小児科に振り分ける)、2.産婦人科・婦人科内視鏡重点コース(婦人科を2ヶ月、小児科1ヶ月)、3.産婦人科・周産期医療重点コース(産科2ヶ月、小児科1ヶ月)、4.産婦人科・外科重点コース(婦人科、産科、外科)。

1.は産婦人科の専門医になることを目標とした一般的なコース、2.は産婦人科腫瘍学を中心に学べるコース、3.は周産期学を中心に学べるコース、4.は産婦人科・腹部外科を中心に修練可能なコースです。

産婦人科を中心に特化した修練を積むことも、全身管理を中心に幅広い科目の修練を積むことも可能です。

ホスピタリスト重視プログラム 定員2名

内科系志望者のたすき掛けプログラムで、研修協力病院のさいたま市民医療センター内科との連携プログラムです。 連続性と、広がりのある研修環境を提供します。

| 総合診療科(3ヶ月) 自治医大さいたま医療センター | 総合内科(6ヶ月) 救急(3ヶ月) さいたま市民医療センター さいたま市民医療センター | | | | | | | |
|------------------------------|---|---------|--------------|-------|--------|-----|--------|------------|
| 小児科(3ヶ月) さいたま市民医療センター | 地域 (1ヶ月) | 外科(2ヶ月) | 選択1 (1ヶ月) | (1ヶ月) | (1ヶ月) | 1 | オプション2 | オプション 3 |
| こいによりにいた。 | (12/11) | | 自治 | 医大さいた | :ま医療セン | ソター | | |

従来のプログラムでは臨床研修現場は診療科別となっており、研修内容が細分化され、疾患と研修内容に偏りが見られました。その問題を克服し、細分化されない連続性のある臨床研修を確立し、総合内科医、家庭医を目指し、その上でサブスペシャルティを選択したい方に最適です。入院患者を診る総合医としてのホスピタリスト研修を目的としています。選択 1,2 ではリウマチ膠原病科、腎臓科、血液科、神経内科研修を推奨します。なお、さいたま市民医療センターは新専門医研修プログラムの連携病院に指定しています。

研修カリキュラムの一例

★総合回診

毎週水曜日午後4時に開催される総合回診は、 当センター開設以来継続されています。レジデン トがケース・プレゼンテーションを行い、臨床推 論を重視して参加者との双方向性の討論がなされ ます。1症例に30分をかけて、プロブレムリス ト、鑑別診断、必要な検査を検討した後、Q&A 方式の考察が発表されます。1年間で約100症例

の主な内科疾患が網羅されています。

内容の一部は「m3.com」の "研修最前線"に連続掲載され ています。

執筆陣は初期・後期研修医とその指 導医達で、総合回診で発表された症 例・症候をまとめました。臨床推論に 最適、実践的な書です。巻末には Fujimoto教授による症例提示法と臨床 推論についての特別寄稿があります。



♣ Fujimoto教授(米国ワシントン州立大学内科名誉教授)によるケース・カンファレンス

英語で実施されるEBMを重視した臨床推論のカ ンファレンスです。1例に約1時間をかけて、プ レゼンテーションの方法も学びます。参加者によ るPeer Reviewがなされます。フジモト教授は1 年に4回来日され2週間滞在されます。ケースカ ンファレンス以外にもレジデントとマンツーマン のClinical Clerkship (1時間程度) が適宜行われ ます。これらの課程を通してレジデントは受け持 ち疾患のproblem listと鑑別診断アプローチへの プロセスを学びます。またフジモト教授来日中の 総合回診(上記)は英語でプレゼンテーションを 行います。



❖ シミュレーション実習・ICLS

初期研修医はシミュレーションセンターにて点滴 採血トレーナー、腰椎・硬膜外穿刺シミュレータ、 直腸診シミュレータ、産科シミュレーショントレー ナー、新生児挿管モデル、動脈穿刺シミュレータ、 皮膚縫合、呼吸音聴診シミュレータなどを用いて実 地臨床開始前トレーニングを行っています。これら のシミュレータの利用は医師、看護師、コメディカ ルスタッフの基本手技習得と医療の質の向上、安全 管理に寄与しています。機器の貸出も可能であり、 レジデントにとっても有意義な実習と高い評価を 得ています。



レジデントのある 1 日のスケジュール

内科系

6:00 起床

1

6:30 病院着

担当患者採血、患者状態確認、その他

看護師さんからのメッセージを確認するのも大事な仕事!

8:00 モーニングカンファレンス 緊張するけど、しっかり準備して自信を持って望めば大丈夫!

9:00 病棟業務(処置当番・患者診療・検査等) 病棟の患者さんの点滴ルート確保、血液培養などの処置を担当 週に約3回程度。採血やルートキープの良い練習

12:00 職員食堂での昼食

13:00 病棟業務

1

1

1

1

1

14:00 病棟教授回診

15:00 処方・検査オーダー・カルテ記載・ 上級医とのディスカッションなど

16:00 総合回診(毎週水曜日)

レジデントが担当した症例を、レジデント・シニアレジデン ト・教授陣などに鑑別疾患などを質問・ディスカッションし ながら提示していく

17:00 患者診察・カルテ記載・ディスカッション、 担当患者のサマリー記載、プレゼン準備、その他

小児科 6:30 起床

1

1

1

1

1

7:30 病院着 患者状態確認、その他 夜間の担当患者の状態を把握することが重要!

8:00 勉強会(火曜日、金曜日)

8:15 モーニングカンファレンス 新患患者のプレゼンテーション、当直医からの申し送り、その他

9:00 病棟回診(担当患者の診察、採血等の処置)

11:00 ドクター・ナースカンファレンス 診察・検査結果を確認し、治療方針・退院方針等を話し合う。 個々の患者が抱える問題点をスタッフ全員で共有する。

12:00 職員食堂で昼食

13:00 エコー検査

専門医の指導下に、研修医自らが行う。

14:00 新患患者の診察・処置・家族への説明 (毎週水曜日は15時から教授回診)

16:30 イブニングカンファレンス 新患患者のプレゼンテーション、当直医への申し送り、その他 入院患者の状態を全員で確認し、検査や治療方針を話し合う。

17:30 患者診察、担当患者の家族へ病状説明、その他

産婦人科

外科系

6:00 起床、 支度、朝食

6:30 出発 1

1

1

1

6:45 採血、カルテcheck

7:00 チーム回診

7:30 術前カンファレンス (月・水・金) 科長回診 (火・木)

8:30 手術

2件ある日は、手術と手術の合間に昼食をとる。 (オペ間隔は60分)

手術終了後 ~病棟業務~

18:00 回診

病棟業務、患者さんや家族への説明など 1

7:00 起床

7:40 病院到着

8:00 カンファレンス(月木は入院患者症例提示、火曜日は病理検討会)

8:30 病棟回診(月曜日は教授回診)

9:00 病棟処置 (入院患者診察・分娩患者方針決定・自然流産処置・羊水検査など)

12:00 昼食

1

1

12:30 手術(産科は帝王切開や妊娠中卵巣のう腫摘出術、子宮頚管縫縮術など)

14:30 新入院患者診察・手術説明等・分娩立ち会い

15:30 手術(婦人科は悪性腫瘍手術や良性腫瘍に対する腹腔鏡下手術)

17:00 病棟回診

17:30 カンファレンス(月は婦人科症例方針決定、 水は小児科との合同検討会産科症例提示)

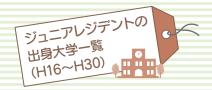








レジデントからのメッセージ





内科系

ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職)

奥富 由貴先生



私が思う当センターの魅力について、少しでも伝えられますよう僭越ながら紹介させていただきます。

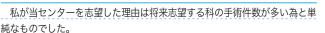
○先生方が優しく教育体制が充実している

当センターの先生方はどなたも教育熱心だと思います。チームの上級医だけでなく同じ科内の先生であればどなたであっても丁寧に教えてくださり、屋根瓦式の教育体制と謳われるように、特に自分に比較的近い年度の先生方には大変お世話になりました。下の学年が入職してきて教える立場になると、良い刺激になりもっと勉強しようという意欲にも繋がります。また研修中に習得すべき手技はもちろん、大学病院らしくチームのカンファランスから学会の発表まで幅広くプレゼンする機会もあり、そうして身につく力は今



外科系 ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職)

川幡 大嗣先生



外科コースでは外科専門医に必要な3領域(心臓血管外科、一般・消化器外科、呼吸器外科)のローテーションが必須であり、各々の科の手術件数はとても多い為、外科専門医の取得に必要な症例数を初期研修医中にある程度稼ぐこともでき、後期研修からはSub Specialityに専念できるというのも当センターの特徴ではないでしょうか。また、それぞれの科での膨大な手術件数のおかげで我々初期研修医でも手術に関してのある程度の手技を修練できるというメリットがあります。私の同期には外科コースが8人いますが、休日等に皆で結紮・縫合などの基本的手技を練習しあったのも良い思い出です



外科系

ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職)

鈴木 理大先生



おそらく皆さんは研修病院を考える中で、何を決め手とすればよいの か悩まれていることと思います。ここでは私が実際に外科系をローテー ションして、研修病院として魅力に思ったことをお伝えできればと思い ます。

私がいくつかの診療科を回って共通して感じたことは、上級医の先生方は優秀で、かつ診療業務・手技等で沢山のチャンスがあるということです。研修病院を決める際に、大学病院だと手技のチャンスが少ないんじゃないか?なんて思っている人は多いと思いますが、当センターは市中病院の特色も持ち合わせていることに加えて、上記のように上級医が研修医に経験させようという雰囲気があり、そんな心配は必要ありません。

また私がいい環境だなと感じる部分としては、総合病院であり殆どの診療科が網羅されていること、どの診療科もコンサルトの垣根がとても低い

後必要となる大きな武器だと思います。

○学閥がなく同期の仲も良い

自治医大の性質上、当センターには様々な大学から人が集まります。そのため学閥を意識したことがなく、特に他県から来る方には働きやすい環境であると思います。科の垣根が低い、診療科を超えてのコンサルトがしやすいという点は、スーパーローテートする私たち研修医にとって一番大きな収穫ではないでしょうか。また、同期の仲が良いという点も、お互いを支えあい刺激しあい、より良い研修生活を送るためにとても大事だと思います。単純な病院設備だけでなく、こうした人間関係も非常に大きな影響をもつため、実際に見学した際にしっかり確認していただきたいと思います。

○診療科が多く高度な医療にも携わる

私が選択した内科プログラムではすべての内科をみることができ、全身を総合的にみる力がつくという魅力があります。内容としても、大学病院でも市中病院でもある当センターの特徴から、academicな症例からcommonな症状まで幅広くみることができます。様々なプログラムが用意されているので、自分に合った研修生活をみつけてみてください。

百聞は一見にしかず、です。ぜひ一度見学にいらしてください。

が、その甲斐もあってか当センターの初期研修医の基本的手術手技のレベルは高いと思います。毎日夜間の緊急手術の機会があれば我先に見学・参加し語り合うMotivationの高い同期が多いです。

また、初期研修医はローテートしている科にかかわらず、救急当直を2年間通して行います。当センターは救命救急センターに指定されており、3次救急では重症な救急搬送が多くあります。経験の少ない初期研修医だからといって片隅で見ていたり簡単な手伝いしかできない、といったことはなく、1年目から中心となって診療に参加することもできます。CVカテーテル挿入やAライン挿入などの手技もやる気さえあればかなり早い段階からたくさん経験することができます。また、2次救急の比較的軽症な救急搬送も多く、所謂common diseaseに関しても多く経験することもできます。

当センターは各科の垣根も低く、他科の先生に気軽に相談できるというのも特徴的です。担当の患者さんのこと以外でも気になったことなど相談すれば熱心に教えてくれる先生も多いです。また、学会発表等の機会も多く、ローテートする診療科で幅広い経験ができると思います。当センターではあなたの意欲次第で様々な経験ができます。是非一度見学に来て頂ければと思います。

ことです。研修医は知識・経験ともに浅く、日々の診療業務でどうしたら良いのかわからなくなることも少なくありません。そんな時に、当センターのように気軽に何処へでも相談できる環境があれば、問題を先送りにすることも少なく、ローテーション中の分野とは別分野のことも同時に学ぶことも可能です。

プログラムに関しては、外科系ローテーションでは自由選択できる期間は3カ月間であり、将来の志望科がおおよそ固まっている人(私もそうですが、、、)はもっと長く志望科を回りたいと思う人も多いと思います。しかし研修で改めて感じたのは、専門性の高い診療をしていても必ず他の診療科で学ぶ知識は必要であり、主治医(担当医)になる限りは全体をマネージメントする必要があるということです。そのために初期研修で様々な診療科で学ぶことは非常に大事であり、それが元々プログラムで決まっているのであれば、どこを回るか悩む必要もなくなります。(要は楽なんです。)

他にも、救急車が多い・循環器系や血液内科が強い・大宮という立地などなどアピールできる点はありますが、その辺りは見学に来ていただければ感じていただけると思います。

兎にも角にも百聞は一見に如かず!是非見学に来ていただければと思います.

京都府立医科大学 旭川医科大学 福島県立医科大学 昭和大学 北里大学 福井大学 高知大学 宮崎大学 札幌医科大学 筑波大学 帝京大学 東邦大学 山梨大学 和歌山県立医科大学 福岡大学 琉球大学 北海道大学 獨協医科大学 聖マリアンナ医科大学 鳥取大学 産業医科大学 東京大学 信州大学 東京医科大学 弘前大学 白治医科大学 東海大学 岐阜大学 島根大学 久留米大学 岩手医科大学 群馬大学 東京兹東今医科大学 新潟大学 近松医科大学 川崎医科大学 佐賀大学 秋田大学 埼玉医科大学 東京女子医科大学 富山大学 愛知医科大学 山口大学 長崎大学 東北大学 千葉大学 日本大学 金沢大学 三重大学 徳島大学 熊本大学 山形大学 杏林大学 日本医科大学 金沢医科大学 滋賀医科大学 香川大学 大分大学



小児科プログラム ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職) 渡辺 英伸先生



まずは当センターでの研修の大まかな利点について説明したいと思います。当センターは大学の附属病院でありながら市中で診るようなcommon diseaseを多く診れるという側面があります。もちろん附属病院であるため専門性の高い疾患も診る機会があります。そのため、大学病院と市中病院で研修することの利点を両方兼ね備えている病院と言えます。また、当センターでは2016年より救命救急センターが立ち上げられ、初期研修医は月4回ほどの宿直が義務付けられているため多彩な患者さんの初期対応を行うことができます。緊急性の高い疾患の初期対応は経験が求められることが多いためこの点は他院に比べて大きな利点だと思います。

これらはほかのプログラムにも共通する当センターのプログラム の利点です。掲載している他の方も説明していると思いますので、





産婦人科プログラム ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職) 田村 早希先生

私は大学での臨床実習で出産現場に立ち会った時の感動が忘れられず、家族やスタッフと共に喜びを共有できる産婦人科に進みたいと思いました。しかし東京のような医師が豊富にいる地域ではなく、産婦人科医が全国で最も少ない地域で働く方が症例数も豊富で研鑽できる環境だと考え、大宮に所在する当センターの産婦人科コースを選択しました。

まずは当センターの産婦人科コースの魅力を伝えたいと思います。産 科では経験豊富な指導医の下で妊娠前のエコーなどの手技はもちろん、 経膣分娩後の膣壁縫合や帝王切開もできる機会があります。婦人科では 腹腔鏡の手術を中心に数多くの症例に触れることが可能です。またやる 気があれば、学会発表をする機会も与えてもらえます。自身の熱意があ





ホスピタリスト重視プログラム ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職) 吉田 泰徳先生

医師としての最初の一歩を踏み出す上で初期研修をどこで送るのかはとても重要です。私がこのホスピタリストコースを選択して良かったと思う点は、優秀で指導熱心な上司に恵まれ、時には辛いこともある初期研修を共に乗り越えていける同期と出会えたことです。そして、大学病院と市中病院をバランスよく研修できるこのプログラムは、あなたが将来generalist、specialistの何れを目指すにしてもきっと役に立つものだと思います。当センターでは大学病院らしく様々な症例を経験することができ、先端的な医療にも触れることができます。各種レクチャーやカンファレンスが充実しているため勉強するにはもってこいの環境です。各専門科が揃っているた

私は当センターの小児科プログラムの利点について紹介させていただきます。小児科プログラムでは、4ヶ月間の小児科研修を行います。当センターの小児科では大学附属病院ではありますが、専門性の高い疾患だけではなくcommon diseaseも診ています。小児科は他科と違い、まず小児の全身を診れた上でさらに小児循環器、小児アレルギーなど、sub-specialityを学んでいきます。そのため、小児科疾患を広く扱っている当センターの小児科は将来小児科を考えている方にはまさにうってつけの環境と考えます。

また、当センターの小児科では超音波検査に力を入れていることも特徴の1つです。超音波検査はCTなどに比べて侵襲性がなく小児科領域では今後注目されていくであろう検査の1つです。超音波検査は機械があればどこでも行える利便性の高い検査ではありますが、実施者の技量による部分が大きいところが欠点です。当センターでは超音波検査を医師自ら行っており、他院に比べ超音波に触れる機会が多くあります。上級医の先生方も親切に教えてくださるため他院に比べ技量を身につけられると考えます。

簡単にですが当センターの魅力を説明させていただきましたが、 他にもここでは語りつくせないほどの多くの魅力のある病院ですの で、ぜひ一度当センターに見学に来てください。

れば手技や手術、発表の経験ができる、それが産婦人科コースの最大の 魅力なのではないかと感じています。

また当センターのその他の魅力について紹介します。第一に科当直はなく、2年間救急当直を行います。三次救急であるために様々な症例や緊急時の対応を学べ、かつ屋根瓦式なので教育熱心な指導医に分からないことを質問し、症例をフィードバックしながら次に活かせます。第二に総合回診やFujimoto教授の英語カンファレンスなどプレゼンテーションをする機会がたくさんあることでプレゼンテーションの基礎を学ぶことができます。私は将来留学したいという目標があるので、英語に触れる環境は最高の環境だと思っています。

そして第三に真面目な同期に囲まれながら、それぞれの専門科にモデルプランとなるような上級医が多数おります。初期研修で医師のあり方がほぼ決まるとよく言われていますが、当センターは自分の能力が最大限発揮できる環境で豊富な症例を経験し、仲間と切磋琢磨しながら充実した2年間を過ごすことができます。まずは一度働いている研修医を見て、病院の雰囲気を感じてください。一緒に働ける日を楽しみにしています。

めマイナー科に興味があっても研修を行うことが可能です。一方、 さいたま市民医療センターでは所謂Common diseaseを数多く経験 できます。内科ローテーション中も週2回の当番日と週1回の当直 で救急医療に数多く触れるため、問診、診察、検査を解釈して診断 を考えるトレーニングを数多く積むことができます。毎朝行われる 内科全体のカンファレンスでは自分が担当した症例をフルプレゼン するためプレゼン能力も大いに培われます。カンファレンスではそ れぞれの症例に対してフィードバックが頂けるため、やりっぱなし にならず今後の診療に活かすことができます。また、患者さんの ADLや社会背景を考え、ソーシャルワーカーさんと相談しながら退 院先を決定するといった、医療に留まらず患者さんの生活全体を コーディネートするという貴重な経験も積ませてもらえます。さい たま市民医療センターでは小児科を3ヶ月ローテートするため子ど もから大人までを診るgeneralな力を身につけることができます。 将来どの科に進むにしる、このホスピタリストコースはあなたの医 師としての土台を作るうえで非常に優れたプログラムであると言え ます。もし興味を持って頂いたら是非見学にいらして下さい。

当センターを基幹病院とする専門医研修プログラム作成状況

| 専門領域 | プログラム名称 | 連携施設名 | | | | |
|-------|---|--|--|--|--|--|
| 内科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 内科専門医研修プログラム | 済生会川口総合病院、川口市立医療センター、 春日部市立医療センター、さいたま市民医療センター、 JCHO埼玉メディカルセンター、JCHOさいたま北部医療センター、 さいたま赤十字病院、彩の国東大宮メディカルセンター、 博仁会共済病院、深谷赤十字病院、秩父市立病院、小鹿野中央病院、 自治医科大学附属病院、練馬光が丘病院、南魚沼市民病院、 南魚沼市立ゆきぐに大和病院、東京大学医学部附属病院、 秩父市立大滝国保診療所 | | | | |
| 小児科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科専門医研修プログラム | さいたま赤十字病院、自治医科大学附属病院 | | | | |
| 外科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 外科専門研修プログラム | 春日部中央総合病院、さいたま市立病院、さいたま赤十字病院、 彩の国東大宮メディカルセンター、秩父市立病院、 仙台市医療センター(仙台オープン病院)、 JCHO東京新宿メディカルセンター、かみいち総合病院、 練馬光が丘病院、東京北医療センター、東北大学病院、 横浜市立みなと赤十字病院、横須賀市立うわまち病院、 白河厚生総合病院、菅間記念病院、自治医科大学附属病院、 埼玉県央病院、JCHOさいたま北部医療センター、 博仁会共済病院、行田総合病院 | | | | |
| 皮膚科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 皮膚科専門研修プログラム | さいたま赤十字病院、JCHOさいたま北部医療センター、 春日部中央総合病院、東京慈恵会医科大学附属病院 | | | | |
| 産婦人科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 産婦人科専門研修プログラム | 埼玉協同病院、かしわざき産婦人科、自治医科大学附属病院、 佐野厚生総合病院、足利赤十字病院 | | | | |
| 眼科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 眼科専門研修プログラム | 自治医科大学附属病院、JCHOさいたま北部医療センター、 東京女子医科大学糖尿病センター | | | | |
| 放射線科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 放射線科専門研修プログラム | 獨協医科大学埼玉医療センター、 彩の国東大宮メディカルセンター、自治医科大学附属病院 | | | | |
| 麻酔科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 麻酔科専門研修プログラム | 埼玉県立小児医療センター、さいたま赤十字病院、 北里大学メディカルセンター、横須賀市立うわまち病院、 昭和大学附属病院、自治医科大学附属病院、 埼玉医科大学総合医療センター、さいたま市民医療センター、 練馬光が丘病院 | | | | |
| 病理 | 地域総合病理医育成を目指した自治医科 大学附属さいたま医療センター病理専門 研修プログラム | 埼玉協同病院、さいたま赤十字病院、水戸協同病院、 焼津市立総合病院、虎の門病院 | | | | |
| 救急科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 救急科専門研修プログラム | さいたま市民医療センター、さいたま赤十字病院、 彩の国東大宮メディカルセンター、上尾中央総合病院、 川越救急クリニック、埼玉医科大学総合医療センター、 日本大学医学部附属板橋病院、千葉西総合病院、埼玉石心会病院、 秩父市立病院(関連施設) | | | | |
| 総合診療 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 総合診療専門研修プログラム | 済生会川口総合病院、さいたま市民医療センター、 JCHOさいたま北部医療センター、 彩の国東大宮メディカルセンター、博仁会共済病院、 明医研ハーモニークリニック、深谷赤十字病院、秩父市立病院、 小鹿野中央病院、南魚沼市民病院、南魚沼市立ゆきぐに大和病院 | | | | |
| 耳鼻咽喉科 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 耳鼻咽喉科専門研修プログラム | さいたま市民医療センター、JCHO東京北医療センター、 埼玉県立がんセンター、自治医科大学附属病院、東北大学病院 | | | | |



大学院生からのメッセージ



内科系 博士課程3年目(平成28年入学) 福島 史人先生



私は将来、地域における救急医療に従事し、医療そのものだけでなく medical control (MC) の発展に貢献したいと考えています。そのため に、私は臨床と研究を両立できる社会人大学院生として修学する事により、救急医療に関する実践的な知識や幅広い能力を身に付けられると考え、大学院への進学を決意しました。私は当院で初期臨床研修を修了し、当院の救急科に入局するのと同時に大学院へ進学し、今年で2年目になります。

MCに関して特に考え始めたのは、地元である埼玉県にある当院で初期臨床研修医として従事するようになってからです。私はそれまで、救急医療における患者さんの予後は病院内の医療従事者の技量に左右されるところが大きいと考えていました。しかし、救急医療に関する事を学ぶにつれて、また救急救命士の方々とお話をする機会を持った事で、必ずしもそうではなくMCを安定化、充実させる事で、例えば防ぎ得た外傷死等も減少させる事が可能である事に気が付きました。

しかし、MC体制を充実させるためには様々な面からアプローチする必要があり、問題点についてデータを集め解析をする等の研究に関する能力が現在の私には不足している事を痛感しました。そのため、私には研究について大学院で十分に学習と経験を重ね、救急医療に関する専門知識を身に付ける必要があると感じました。

そんな折、私は大学院の説明会やパンフレット、また先輩方のお話を見聞きし、前述した事について学ぶために大学院へ進学しました。私は、当院救急科の守谷俊教授にコンタクトをとり、社会人大学院であれば臨床と研究を両立させ、救急医療について十分に学習でき、MCの地域社会医学的なアプローチ方法を身に付けられると感じました。今後、地域の救急医療におけるMC体制が充実するように、そして私の研究が救急医療分野の発展に貢献できるよう臨床に研究に励んで行きたいと思います。大学院への進学を考えている方は、是非共に学んで行けたらと思います。



外科系 博士課程3年目(平成28年入学) 増田麻里亜先生



私は当院での初期研修を終えた後、耳鼻咽喉科の医局に入局し、2年の臨床を経て大学院に入学しました。当初の自分のキャリアプランに大学院はありませんでしたが、先輩の大学院生のすすめで、そんな道もあるのだと興味を持ったのがきっかけです。私の話も皆さんにとって何らかのきっかけになれたら嬉しいなと思います。

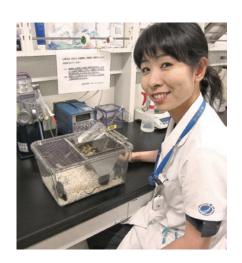
大学院に入る事を考えたとき、まず心配に思うのは、大学院に入ることで手術の機会が減るなど、臨床の経験にプランクができてしまうのではないかという事ではないでしょうか。私も、入学前に同じ心配をしました。しかし、すでに在学している大学院生達の実際の生活を見ることで、その心配は払拭できました。

現在、私は一般大学院生として在籍していますが、講義に出たり、動物実験を行ったりするほかに、外来や病棟業務も並列でさせてもらい、手術の件数についても同期のレジデントと同等の経験ができています。また、この病院には社会人大学院生も多く在籍しており、通常と変わらない仕事をこなしながら、夕方や休日に研究をし、講義などはインターネットを通じて受講するということも可能です。この病院では敷地内に研究棟があるので、臨床の場と行き来がしやすく、空いた時間を使っての研究が可能になっています。また、ここの研究室だけでは難しい研究も、栃木の本学の研究室にサポートしてもらいながら進めることもできます。

研究をするという事は、自ら臨床などで疑問に思ったことを、どうすれば解決できるか方法を考え、それを実践してみるという事です。これを最初からすべて自分でやらなくてはと考えると、そんなの無理と諦めてしまう人がほとんどでしょう。しかし実際は、先輩大学院生だったり、指導教官だったり、研究の仕方を一から教えてくれる人達がいます。私の場合も入学直後は先輩の実験のお手伝いから始めて、無理なく自分の実験について考えられるところまで来ました。今は動物を使った実験をしていますが、結果を求めることがこんなに楽しいとは。私の経験談は今も現在進行形で進んでいます。

初期研修が終わった後のキャリアを考えたときにも、当院での研修は有意義と 保証します!





募集要項

募集人員

○一般プログラム 24名 ○小児科プログラム 2名 ○産婦人科プログラム 2名 ○ホスピタリスト重視プログラム 2名

応募資格

ジュニアレジデント (医療法第16条の2第1項に規定する臨床研修)

- ・平成31年3月に大学医学部または医科大学を卒業見込みの者
- ・平成31年3月以前に大学医学部または医科大学を卒業し、平成31年に医師免許を 取得見込みの者

以上の条件を満たし、マッチングシステムに参加登録する者



平成30年8月16日(木)·8月20日(月)·8月21日(火) 平成30年8月22日(水)·8月24日(金)



平成30年7月2日(月)~平成30年8月10日金(当日必着)

方 法

面接試験

出願書類等

下記書類を一括して封筒に入れ郵送してください。

- (1) 医師臨床研修申込書(学歴は高校卒業時から記入)、写真貼付 (当センター所定の書式による・ホームページからダウンロード可能) 連絡先については日中電話連絡のできる所をお書きください。
- (2) 卒業見込証明書

送付先

※〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847

自治医科大学附属さいたま医療センター

卒後臨床研修室 まで

TEL.048-648-5382(直通)

mail: rinshoukenshu2@omiya.jichi.ac.jp

身分及び待遇

① 身 分 さいたま医療センター職員

② 報 酬 ジュニア1 (卒後1年目) 年額 約425万円 (賞与含む・当直料含む)

ジュニア2 (卒後2年目) 年額 約490万円 (賞与含む・当直料含む)

③ 当 直 料 ジュニア1 (卒後1年目) 1.5万円

ジュニア2(卒後2年目) 2.5万円

④ 社 会 保 険 日本私立学校振興·共済事業団

⑤ 宿 舎 教職員住宅完備(下の写真参照)※世帯用もあります。

⑥ 福利厚生等 日光研修所、北軽井沢山荘、院内保育所、

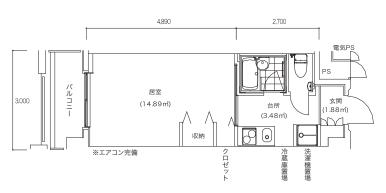
フィットネスクラブ (法人会員)、食事料補助 3,500円/月、

学会旅費支給(上限あり)、院内表彰制度(優秀レジデント賞)あり、

勤務医師賠償責任保険(補償額2億円)に加入。

※初期研修期間はセンターにて保険料を負担します。





ジュニアレジデント用宿舎(単身者用)

ジュニアレジデント用宿舎 平面図(単身者用、一例)

研修内容説明会 ※事前に参加申し込みをお願いします。

第1回 平成30年7月28日仕

タイムスケジュール

第2回 平成30年8月4日出

13:00 各プログラム(各科)

14:00 コーヒーブレイク

15:10 病院施設見学

15:40 解 散

実習生・見学生

実習生・見学生を随時受け入れしておりますので、関心のある方はご連絡ください。 ※連絡先については前ページ参照

センター内の紹介







































センター長百 村 伸 一副センター長小 山 信一郎遠 山 信 幸讃 井 將 満力 山 敏 樹

石 川 治

美



<平成30年度新ジュニアレジデント>

■病床数 628床

■ **患者数等** (平成29年度) 外来 1日平均 1,328人 入院 1日平均 513人 手術件数 7,278件 救急車年間搬送数 9,214件

■職員数(平成30年4月1日現在)

医師 333人(内レジデント173人)

看護師832人医療技術職員224人事務職員・その他108人合計1.497人

■診療科

内科・外科・循環器内科・放射線科・精神科・ 小児科・心臓血管外科・脳神経外科・整形外科・ 泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・産婦人科・皮膚科・ リハビリテーション科・麻酔科・歯科口腔外科・ 病理診断科・救急科・形成外科

ACCESS



○国際興業バス ●大宮駅東口から約1.8km(約10分)

4番乗場 (大11) 自治医大医療センター行き → 「自治医大医療センター」下車 ※平日朝7:02~17:48まで約12分毎に往復運転

7番乗場 (大04-2) 大谷県営住宅行き(新道経由)→「自治医大医療センター」下車

7番乗場 (大02-2) 浦和学院高校行き (新道経由) →「自治医大医療センター入口」下車

自治医科大学附属さいたま医療センター